

ともに歩む、その先の革新へ



イビデン株式会社

2026年3月期(2025年度)第3四半期決算

※決算説明会は開催していませんが、決算発表後にアナリスト及び投資家様から頂いた主なご質問とご回答内容を纏めております。皆様の理解向上の一助になれば幸いです。

2026年3月期 第3四半期決算 主な質疑応答

<1>

[Q] 電子事業の今期業績見通しを下方修正したが、需要や競争環境に変化が生じているのか？

[A] AIサーバー向けICパッケージ基板については、当社のキャパシティを上回る状況が継続しており、競争環境についても大きな変化はない(当社のシェアは70~80%程度)と見ている。
今回の下方修正については、足もとのPC(パソコン)向け・汎用サーバー向け・ネットワーク向けの受注が想定ほど伸びない見通しを受けて実施したが、市場環境自体は概ね堅調に推移していると考えている。

<2>

[Q] 2026年度から2028年度の3ヵ年で、電子事業に対して総額5,000億円規模の設備投資を行うと発表したが、何故このタイミングで発表したのか？また、設備投資資金はどのように手当てするのか？

[A] 河間工場への設備投資(2,200億円)については、CPU大手顧客の新技术に対する期待値がさらに高まっており、同社から生産体制の早期構築を要求する声が強まった。
大野工場への設備投資(2,800億円)については、前述の通り、AIサーバー向けの需要が強く、今後、高多層化・大型化がさらに進展すれば、最先端製品に対応可能なSAPキャパシティが不足する。こうした背景から、顧客とビジネス条件を交渉し、方向性の合意が得られたため、取締役会での決議を経て発表を行った。
設備投資資金については、顧客と契約を締結した上で、投資相当額を前払いで受領することを基本方針とする。

<3>

[Q] 今回の設備投資によって、AIやASIC向けのSAPキャパシティが、どの程度増加するのか教えてほしい。

[A] 2024年度上期末を1.0とした場合、2028年度末には3.0倍弱になる見込み。

<4>

[Q] AIサーバー向けの需要が強いようだが、来期以降の業績見通しに変化はないか？また、材料調達リスクに対してはどのように手当てするのか？

[A] 来期以降の業績見通しについては、現在精査を進めており、5月初旬の本決算発表及び決算説明会にてアップデートする予定。
材料調達については、中間決算説明会で開示した今期及び来期のガイダンス分は、概ね確保できているが、アップサイドに対応できる材料は確保できていない。引き続き、新規サプライヤーの認定評価を進め、業績の上積みを目指していく。

以上